



平成31年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成31年1月31日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 スクロール
 コード番号 8005 URL <https://www.scroll.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役会長 (氏名) 堀田 守
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経営統括部長 (氏名) 杉本 泰宣 TEL 053-464-1114
 四半期報告書提出予定日 平成31年2月12日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 平成31年3月期第3四半期の連結業績（平成30年4月1日～平成30年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年3月期第3四半期	55,127	18.2	2,165	11.2	2,182	6.2	1,447	—
30年3月期第3四半期	46,653	5.2	1,947	41.5	2,055	43.1	△478	—

(注) 包括利益 31年3月期第3四半期 1,197百万円 (—%) 30年3月期第3四半期 △169百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年3月期第3四半期	42.38	42.28
30年3月期第3四半期	△14.06	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
31年3月期第3四半期	44,330	22,004	49.6
30年3月期	40,319	21,094	52.3

(参考) 自己資本 31年3月期第3四半期 21,993百万円 30年3月期 21,089百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年3月期	—	5.00	—	5.00	10.00
31年3月期	—	5.00	—	—	—
31年3月期（予想）	—	—	—	5.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 平成31年3月期の連結業績予想（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	70,000	12.5	1,800	38.1	1,800	23.5	1,200	—	35.04

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 一社（社名）一、除外 一社（社名）一

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	31年3月期3Q	34,818,050株	30年3月期	34,818,050株
② 期末自己株式数	31年3月期3Q	574,887株	30年3月期	707,680株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	31年3月期3Q	34,159,645株	30年3月期3Q	34,033,090株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。なお、上記予想に関する事項は、〔添付資料〕3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（四半期決算補足説明資料の入手方法について）

四半期決算説明資料は、平成31年1月31日に当社ホームページに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国の経済は、好調な企業業績を背景に雇用環境の改善、設備投資の増加等、総じて緩やかな回復基調であったものの、国際的な通商問題や政策動向の影響が懸念される等、景気の先行き不透明感を増す状況で推移しました。

小売業界におきましては、富裕層による高額品消費やインバウンド消費が引き続き好調に推移するなど、消費全体は緩やかな持ち直しの動きが見られましたが、海外経済の不確実性や将来不安を背景とした節約志向により、個人消費は底堅くも力強さに欠ける状況が続いております。

このような事業環境のなか、当社グループは、収益力のある「Direct Marketing Conglomerate (DMC) 複合通販企業」の完成に向け中期経営計画を「新みらい2020」と刷新し、「グループ収益基盤の強化」を初年度の方針に掲げ、「通販事業の安定的な収益基盤の確立」及び「グループ各事業における事業環境にあわせた販促投資とコスト管理の徹底」にグループ一丸となって取り組んでおります。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上高55,127百万円（前年同四半期比18.2%増）となりました。利益面におきましては、営業利益2,165百万円（同11.2%増）、経常利益2,182百万円（同6.2%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益1,447百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失478百万円）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

当社は、中期経営計画「新みらい2020」の完遂を目指すなかで、「総合通販企業」から「DMC複合通販企業」へ変革を遂げております。複合通販の今後のさらなる進化を目指し、収益力のあるDMC複合通販企業の完成へ向けて、M&Aの推進による事業ポートフォリオの拡充や海外事業への取組みを強化していくなかで、当社グループの事業分野、収益構造を明確にするため、セグメント区分を変更いたしました。これに伴い、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントを変更しており、以下の前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。詳細は、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（セグメント情報）」をご参照ください。

なお、セグメント別の売上高は連結相殺除去後の数値を、セグメント利益又は損失は、連結相殺除去前の数値を記載しております。

① 通販事業

通販事業におきましては、組織会員向け販売において、お客様のニーズの変化に柔軟に対応するため、お求めやすい価格帯の商品や多サイズで展開するアパレル商材の品揃えを増やすとともに、オーガニックコットン素材の商品を取り揃えた新ラインを展開させるなど商品企画力の向上に取り組み、新規顧客の開拓に努めてまいりました。このほか、ライフスタイルの提案企画を強化し、それに伴う商材の拡大を推進してまいりました。

以上の結果、売上高は27,002百万円（前年同四半期比1.7%増）となり、セグメント利益は2,024百万円（同27.8%増）となりました。

② eコマース事業

eコマース事業におきましては、EC業界での競争が激化するなか、受注の拡大に向け、外部モールへの新規出店による販売面積の拡大や魅力ある商品の品揃え拡充により売り場を強化するとともに、ブログやSNSを活用した積極的な情報発信や外部モールのシーズンイベントの活用など集客力の向上に努めてまいりました。また、アウトドア・フィッシング用品のECサイト『ナチュラム』を中心に、他社との差別化を実現すべく、自社オリジナル商品の企画開発に注力してまいりました。

以上の結果、売上高は14,251百万円（同49.2%増）となり、セグメント利益は248百万円（同76.0%増）となりました。

③ 化粧品事業

化粧品事業におきましては、グループ全体の事業ポートフォリオの観点から、投資育成事業として位置付け、事業基盤づくりに向けた先行投資を行ってまいりました。オリジナルブランド化粧品において、自然派化粧品『草花木果』のインフラの刷新やブランドリファインといった事業基盤の地固めを行う一方で、当社グループのシナジーを生かした販売チャネルの拡大や新規商材の開発を推進してまいりました。また、オーガニックコスメブランド『24hコスメ』及び『TV&MOVIE』においては、ブランド認知の拡大に向けたプロモーション活動を展開してまいりました。このほか、海外販売において、主力商品『豆乳よーぐるとぱっく玉の輿』に加え新たな商材シリーズを中国で展開するための環境の整備や、台湾でのマーケティングの強化にも取り組んでおります。

以上の結果、売上高は3,728百万円（同0.8%増）となり、セグメント損失は323百万円（前年同四半期はセグメント損失74百万円）となりました。

④ ソリューション事業

ソリューション事業におきましては、決済代行サービス『後払い. com』の取扱高拡大に向け営業活動を強化したほか、日本初、全国一律の配送料金のコンビニ受取サービス『コトリ』の提供を通信販売事業者向けに開始いたしました。また、ドロップ SHIPPING サービスやアフィリエイトサービスを行う株式会社もしもの株式を取得し、当社グループ内でのシナジーの創出に努めてまいりました。このほか、茨城県つくばみらい市への物流センター新設プロジェクトの開始や関西物流拠点の拡充など、全国を網羅する物流ネットワークの構築に向けた拠点の強化を推進してまいりました。

以上の結果、売上高は9,675百万円（前年同四半期比41.6%増）となり、セグメント利益は434百万円（同30.0%増）となりました。

⑤ 旅行事業

旅行事業におきましては、平成30年1月に子会社化した株式会社トラベックスツアーズにおいて、首都圏近郊からの日帰りバスツアーの企画販売を行っております。主力であるバスツアーの販売や訪日ツアーの取扱いの拡大に向け、当社グループや提携先などを活用した販路の新規開拓に取り組んでまいりました。

以上の結果、売上高は454百万円となり、セグメント損失は140百万円となりました。なお、当事業は第1四半期連結会計期間より報告セグメントとしているため、前年同四半期比は記載していません。

⑥ 海外事業

海外事業におきましては、当社グループのノウハウや実績を生かした、中国やASEAN市場における、日本製商品の販売や訪日外国人旅行者向けのサービスの提供といった、海外での新規ビジネスモデルの構築をめざし、現地での市場調査や営業活動を進めてまいりました。

以上の結果、売上高は8百万円となり、セグメント損失は114百万円となりました。なお、当事業は第1四半期連結会計期間より報告セグメントとしているため、前年同四半期比は記載していません。

⑦ グループ管轄事業

グループ管轄事業におきましては、当社グループの物流オペレーションや自社保有物流施設等の不動産賃貸を行っております。

以上の結果、売上高は5百万円（同0.5%減）となり、セグメント利益は49百万円（同44.7%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末の総資産は44,330百万円となり、前連結会計年度末に比べ4,011百万円増加いたしました。この主な要因は、売上高の増加に伴う売掛金の増加及びたな卸資産の増加によるものであります。

(負債)

負債は22,326百万円となり、前連結会計年度末に比べ3,102百万円増加いたしました。この主な要因は、長期借入金の増加によるものであります。

(純資産)

純資産は22,004百万円となり、前連結会計年度末に比べ909百万円増加し、自己資本比率は49.6%（前連結会計年度末は52.3%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、平成30年5月8日の「平成30年3月期決算短信」で公表いたしました平成31年3月期の通期の連結業績予想を修正いたしました。詳細につきましては、本日（平成31年1月31日）公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,766	4,588
売掛金	10,271	12,485
たな卸資産	7,294	8,632
その他	3,144	3,435
貸倒引当金	△250	△240
流動資産合計	26,226	28,902
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	4,380	4,220
土地	4,614	5,520
その他（純額）	944	837
有形固定資産合計	9,938	10,579
無形固定資産		
のれん	318	921
その他	795	858
無形固定資産合計	1,114	1,780
投資その他の資産		
その他	3,248	3,274
貸倒引当金	△208	△206
投資その他の資産合計	3,039	3,068
固定資産合計	14,092	15,428
資産合計	40,319	44,330
負債の部		
流動負債		
買掛金	2,956	3,234
短期借入金	2,100	100
未払金	10,183	11,362
未払法人税等	491	397
引当金	320	198
その他	1,392	1,112
流動負債合計	17,443	16,405
固定負債		
長期借入金	526	4,610
引当金	90	72
退職給付に係る負債	1,024	1,087
その他	139	150
固定負債合計	1,780	5,921
負債合計	19,224	22,326

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,005	6,005
資本剰余金	6,657	6,657
利益剰余金	8,018	9,120
自己株式	△326	△275
株主資本合計	20,353	21,507
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	749	452
繰延ヘッジ損益	△29	20
為替換算調整勘定	16	12
その他の包括利益累計額合計	736	485
新株予約権	4	11
純資産合計	21,094	22,004
負債純資産合計	40,319	44,330

（2）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

（四半期連結損益計算書）

（第3四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第3四半期連結累計期間 （自平成29年4月1日 至平成29年12月31日）	当第3四半期連結累計期間 （自平成30年4月1日 至平成30年12月31日）
売上高	46,653	55,127
売上原価	29,068	35,089
売上総利益	17,584	20,038
販売費及び一般管理費	15,636	17,873
営業利益	1,947	2,165
営業外収益		
受取利息	9	10
受取配当金	36	40
その他	89	66
営業外収益合計	135	117
営業外費用		
支払利息	9	13
為替差損	—	12
持分法による投資損失	5	66
その他	12	8
営業外費用合計	27	100
経常利益	2,055	2,182
特別利益		
固定資産売却益	—	0
投資有価証券売却益	—	122
特別利益合計	—	122
特別損失		
固定資産売却損	—	0
固定資産除却損	37	22
減損損失	1,710	—
その他	5	—
特別損失合計	1,752	22
税金等調整前四半期純利益	303	2,283
法人税、住民税及び事業税	688	774
法人税等調整額	62	61
法人税等合計	751	835
四半期純利益又は四半期純損失（△）	△447	1,447
非支配株主に帰属する四半期純利益	30	—
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失（△）	△478	1,447

（四半期連結包括利益計算書）

（第3四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第3四半期連結累計期間 （自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日）	当第3四半期連結累計期間 （自 平成30年4月1日 至 平成30年12月31日）
四半期純利益又は四半期純損失（△）	△447	1,447
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	326	△296
繰延ヘッジ損益	△48	49
為替換算調整勘定	0	△3
その他の包括利益合計	278	△250
四半期包括利益	△169	1,197
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	△199	1,197
非支配株主に係る四半期包括利益	30	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間（自平成29年4月1日至平成29年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント								調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	通販事業	eコマース 事業	健粧品 事業	ソリュー ション 事業	旅行事業	海外事業	グループ 管轄事業	計		
売上高										
外部顧客への 売上高	26,560	9,554	3,700	6,832	—	—	5	46,653	—	46,653
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	42	1	188	968	—	—	1,692	2,894	△2,894	—
計	26,603	9,555	3,889	7,801	—	—	1,698	49,548	△2,894	46,653
セグメント利益 又は損失(△)	1,584	141	△74	334	—	—	89	2,074	△18	2,055

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額には、未実現利益11百万円、セグメント間取引消去△30百万円が含まれております。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「健粧品事業」において、第1四半期連結会計期間に株式会社T&Mの全株式を取得し、当社の連結子会社となったことから、のれん963百万円を計上いたしました。また、第2四半期連結会計期間に株式会社キナリの全株式を取得し、当社の連結子会社となったことから、のれん211百万円を計上いたしました。このほか、当第3四半期連結会計期間に、株式会社ナチュラピュリファイ研究所及び株式会社T&Mにおいて、株式取得時に想定していた収益が見込めなくなったため、のれんの全額1,710百万円(株式会社ナチュラピュリファイ研究所 858百万円、株式会社T&M 851百万円)を減損損失として計上しております。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自平成30年4月1日 至平成30年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント								調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	通販事業	eコマース 事業	化粧品 事業	ソリュー ション 事業	旅行事業	海外事業	グループ 管轄事業	計		
売上高										
外部顧客への 売上高	27,002	14,251	3,728	9,675	454	8	5	55,127	—	55,127
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	69	54	101	1,506	1	—	1,733	3,465	△3,465	—
計	27,072	14,305	3,830	11,181	456	8	1,738	58,593	△3,465	55,127
セグメント利益 又は損失 (△)	2,024	248	△323	434	△140	△114	49	2,177	5	2,182

(注) 1. セグメント利益又は損失 (△) の調整額には、未実現利益35百万円、セグメント間取引消去△30百万円が含まれております。

2. セグメント利益又は損失 (△) は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社は、中期経営計画「新みらい2020」の完遂を目指すなかで、「総合通販企業」から「DMC複合通販企業」へ変革を遂げております。複合通販の今後のさらなる進化を目指し、収益力のあるDMC複合通販企業の完成へ向けて、M&Aの推進による事業ポートフォリオの拡充や海外事業への取組みを強化していくなかで、当社グループの事業分野、収益構造を明確にするため、報告セグメント区分を変更いたしました。これまでの業態別4報告セグメントに、新たに「旅行事業」、「海外事業」、「グループ管轄事業」の3セグメントを追加し、7報告セグメントへと変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、当第3四半期連結累計期間の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（のれんの金額の重要な変動）

「ソリューション事業」において、第1四半期連結会計期間に株式会社もしもの全株式を取得し、当社の連結子会社となったことから、のれん760百万円を計上いたしました。なお、当該金額は暫定的に算定された金額であります。